中距離エースピジョンの最高賞

令和6年度 会長賞全国1位

全国1位

22LC05247
“セントトーマス・フレンドシップ”
BC ♀ ピグマリオンロフト 作翔

24年平成千葉連盟Rg　432K2,944羽中総合7位　入賞率:0.00238
地区N　576K2,345羽中総合優勝　入賞率:0.00043

合計入賞率 0.00281



生まれ

- 生年月日 …… 22年5月17日
- 順番 …… 1番仔

鳩体

- 大きさ……中
- 体型……普通
- 主翼の形状…キレあり
- 腰の厚み…普通
- 筋肉……ゴムマリ型
- ベスト時の重さ…軽い
- 目……銀
- 重心…後ろ
- 性格……神経質

作出の意図

- 距離適性 …… 600K・700K
- 展開 …… 分速1400m以上
- タイプ …… 万能型



＊24年**シルバーエクセレントピジョン**
23年秋平成千葉連盟300K3,394羽中総合4位

- 18LC09625　B　大沢ファミリーロフト 作
  - B15-3050759　BW　ジノ・クリケ 作
    直仔／**18年シルバーエクセレントピジョン**
    - B12-3050011　B　ジノ・クリケ 作
      “スーパープリンス”(10年KBDB超中距離ナショナルAP賞2位／“カニバール”の直系)の直仔娘／“ゴールデンプリンセス”(17年KBDB超長距離&長距離ナショナルAP賞1位)
    - B08-3172954　BW　ジノ・クリケ 作
      “スピード”(ブールジュN優勝)の孫×“ロベルト”(“ピラート”の父方祖父)の娘
  - 15LC13675　B　大沢ファミリーロフト 作
    - 07LC13105　B　大沢ファミリーロフト 作翔
      08年千友会GP2,891羽中総合4位
    - B07-9015037　B　ビーケン父子 作
      “クライネン”(ファンデナベールの源鳩)の玄孫
      直仔／千葉ブロック連盟GP総合12位
      全姉／“ガビー”(08年KBDB中距離ナショナルAP賞1位)
- 17LC07825　BC　ピグマリオンロフト 作翔
  18年**ベルギー王立愛鳩家協会会長賞連盟1位**
  地区N総合82位、桜花賞総合5位
  - 16LC07401　BW　鈴木邦男 作
    “小田チンドン149”近親×“ド・019”近親
  - 15HA00019　BC　榊 林太郎 作　直仔／優勝多数
    12年ジャパンカップ総合4位(“デンボルドー”の曾孫)×渡辺 正 作(“レコードブレーカー”×“マリオン”)

令和6年度　会長賞全国1位　ピグマリオンロフト(常総中央連合会)

の作翔者・連盟・常総中央連合会）

協会エースピジョンの全国１位を獲得――！

象に競われる「会長賞」。前身の「笹川名鳩賞」時代から数えて35年ぶりに復活を遂げた「全国1位」は、中距離エースピジョンして唯一実力面だけの選考であるため、その人気と注目度は一際大きい。令和6年度は6月30日までに56羽が有資格鳩としてマリオンロフト（常総中央）作翔の「22LC05247」が「全国1位」に選出された。Rgで総合7位、地区Nでは総合優勝と堂々たる成2%台、地区Nで1%台、300Kでは総合4位に入賞しており、能力は歴代屈指である。しかも血統は、現在日本鳩レース界を席リンス"、そしてファンダイクの"カニバール"の血脈を継承。"最新"もブラッドスポーツの輪廻を体現する然るべき1羽だった。

歴代トップクラスの〝最新〟の全国１位！

対象レースは春の「Rg（公称400K以上）」と「地区N（公称600K以上）」である。鳩舎としてではなく、1羽の翔歴によって決まるエースピジョンタイトル――それが「会長賞」だ。笹川良一氏の当協会会長就任（※78年）を機に「笹川名鳩賞」として設立し、現・名称となったのは、同氏が勇退した92年からである。各連盟1位に受賞鳩を絞っての顕彰だったものの、13年に日本鳩レース界を盛り上げようという試みから第1回目より長らく封印されてきた「全国1位」が復活。以来、会長賞の頂点は、中距離エースピジョンの最高賞として認知され、現在に至る。

令和6年度は56羽が「全国1位」の資格（＊6月30日までに申請済の会長賞）を手にする中、トップを射止めたのは、18年に「日本最優秀鳩舎賞」、昨年には「全日本ゼネラルCH賞」でプラチナマーク賞（全国2位）を射止め、なおかつ今年はこの2タイトルの受賞、及び候補者として名を連ねている〝超実力派〟の親子鷹・**ピグマリオンロフト（常総中央）**――の**「22LC0524 7」**。BCの♀だ。Rg総合7位、地区N総合優勝で叩き出された入賞率**「0.00281」**は、2位以下を大きく突き放すものであり、また令和では最小、史上6番目という圧倒的な数値での選出である。そして前年の秋でRg総合45位（2%台）、同年の地区Nでは、「1%台」となる総合34位に入賞し、シルバーエクセレントピジョンを最高クラスの翔歴で認定。

さらに実力面がより表出する平均分速率では、「0.99603」と、総合優勝2回という絶対的数値（※平均分速率「1」をマークした2羽（＊13年と17年）を外せば、2番目の高数値だ。最新の中距離の女王もまたスペシャリストであったが、「歴代トップクラスの～」という形容詞が付くはずだ。加えて、300Kでは「0.1%」台となる総合4位に入賞しており、会長賞という枠を超え、〝レース鳩〟としても、同様の評価と言えるだろう。ちなみにピグマリオンロフトにとって全日本ゼネラルCH賞受賞のポイントゲッターでもあり、期待の1羽で



代表にして父の糸川隆男氏

作翔者・ピグマリオンロフト（常総中央）のプロフィール

■鳩歴／20年　■レース歴／20年
■鳩舎規模／種鳩８坪70羽・選手鳩６坪100羽
■主力系統／ヤンセン系、地元の飛び筋
■代表翔歴／日本最優秀鳩舎賞、全日本ゼネラルCH賞2回、ブロックCH賞2回、Rg、地区N各総合優勝　GP連盟優勝2回

令和6年度 会長賞全国1位
ピグマリオンロフト(平成千葉

“平成最後の日本一”がロフト初となる

歴代会長賞全国1位受賞鳩及び受賞者一覧

年度	受賞鳩	羽色	性別	受賞者	合計入賞率
令和5年 2023年	22MB06901 “スペシャル・ブルースカイ・レディー”	BCW	♀	ミヤモトレーシング (茨城・茨城東連合会)	0.00414
令和4年 2022年	21HF03658 “エクセレントレディ号”	BC	♀	砂岡正美鳩舎 (東坂東・栃南連合会)	0.00479
令和3年 2021年	19XA13453 “Ryôga453”	BC	♂	住谷勝三鳩舎 (ニュー近畿・豊中連合会)	0.00518
令和2年 2020年	――― コロナ禍のため授賞なし ―――				
令和元年 2019年	18KA10144 “令和ストロング号”	BC	♂	船川勝信鳩舎 (埼玉・埼玉連合会)	0.00460
平成30年 2018年	17LB04520 “キンバリー”	B	♀	日暮義一鳩舎 (千葉・房総連合会)	0.00321
平成29年 2017年	16HS00121 “石狩マスト号”	B	♀	原田　弘鳩舎 (つくばね・常陸石岡連合会)	0.00180
平成28年 2016年	14MK04520 “パーフェクトナショナル”	BC	♀	原　正次鳩舎 (東京多摩・東京湖南連合会)	0.00343
平成27年 2015年	14HF04926	B	♂	足澤秀昭鳩舎 (東坂東・宇都宮連合会)	0.00209
平成26年 2014年	13HF10148	B	♀	釜井盛司鳩舎 (東坂東・宇都宮連合会)	0.00189
平成25年 2013年	12LB01045 “アイアンレディ”	B	♀	日暮義一鳩舎 (千葉・房総連合会)	得点2

＊14年度より完全入賞率制を導入

Rgと地区Nの春の中距離2レースを対の最高賞として評価され、カテゴリーと申請され、糸川親子で結成されたピグ績での受賞であったが、他にも秋Rgで巻しているジノ・クリケの“スーパープ

あったようだ。

自系統でなくとも然るべき! エースピジョンの輪廻を体現

もはやレース鳩の完成形ともいうべき「22LC05247」は、平成最後の日本一に導いた「03LK11283」や“お年玉号”といった基礎鳩の血――ではない。とはいえ、母親はKBDB会長賞の連盟1位に選出された自鳩舎のCHであり、エースピジョンとしては“親子二代”の成果だ。

一方の父親には現在、日本鳩レース界でブームになりつつあるジノ・クリケのナショナルレースシングル2回(10年ブルージュN5位、アルジェントンN6位)のスーパーレーサー“スーパープリンス”、そしてすでにブレイク済であるガビー!ファンデナベールの源鳩“クライネン”の血がダイレクトに脈を打っており、前者が“ゴールデンプリンス(14年KBDB長距離Nエースピジョン賞1位)”や“ゴールデンプリンセス”、後者が“ブリクセム(ポワチェを含めプロヴィンシャルレース優入賞多数)”に“スーパーロメオ(13年KBDB長距離Nエースピジョン賞1位)”、そしてホーイマンスの“ハリー(09年WHZB長距離Nエースピジョン賞1位)”――とヨーロッパを中心に伝説的エースピジョンをもたらしてきたことは、あまりにも有名だ。ちなみにこれまで6羽の会長賞全国1位を輩出してきたファンダイクの“カニバール(96年KBDB中距離Nエースピジョン賞1位)”の因子もジノ・クリケの“スーパープリンス”を経由して搭載(＊母親が玄孫)!　つまり「22LC05247」もまたエースピジョンの輪廻を体現する“ブラッドスポーツ”の申し子なのである。

ゴールデンエイジの存在とピグマリオン効果で才能が開花

とはいえ覚醒は23年生まれの存在が大きかったようだ。彼ら、彼女らはとにかく幼き頃から優秀で、舎外も例年の2倍近く飛んでおり、レースの結果としてもRg総合優勝を含めベストテンを5羽輩出。いわゆるゴールデンエイジたちの影響を受け、トレーニングを積んだことが見事に潜在能力を引き出させたと代表の糸川隆男氏は分析する。

そもそも同氏は教育関係の職業に従事しており、才能を開花させる術に長けているといって過言ではない。その最たる姿勢が愛情をかけることであり、親交ある者なら誰しもが知っていることだが、彼とトリたちの距離感は余りにも近い。ちなみにAIに相談してつけたという受賞鳩の愛称には、隆男氏が最も愛する楽曲名が採用――“最高傑作”の誕生もまたロフト名の如く「ピグマリオン効果」による賜物だったようだ。

【各連盟の受賞鳩の発表は12頁～】